

第15回 初めから自転車に乗れた人は・・・???

自転車にまたがった日から、すいすい運転できた人はあまりいないと思います。普通は、肘を打ったり、膝をすりむいたり、そのような姿を人に見られたりするのを覚悟で、訓練したり、補助輪を外していったりしたのではないのでしょうか。

もし「工賃向上」に本気で取り組むなら、事業所にとっても、あなたにとっても、経験のないことやらなければならないかもしれません。例えば、開拓営業に歩いたり、業者さんに作ってもらったホームページを自力で更新したり、商品開発のための会議を開いたり、利用者さんの作業を大きく変えたりです。

初めてのことをやろうとすれば、自転車にまたがってしばらくの間のように、少し痛い思いをしたり、恥をかいたりするかもしれません。それを恐れて、いつまでも先送りしてしまいがちです。

そして先送りするための都合のいい言い訳は、いくらでも湧いてくるでしょう。「営業して成果がなければ人件費が無駄になる」「営業したら既存の顧客からにらまれる」「ホームページを更新する職員が過重労働になる」「掲載にした内容に間違いがあれば法人の恥になる」「商品開発より、今ある商品を大事にすべき」「会議を開けば、運営に批判的な意見がでるかもしれない」「作業を大きく変えることは、利用者の福祉に反する」「作業を変えて事故があったら、法人が訴えられる」・・・等々（・_・;）

一方、そのような言い訳を克服し、本当に重大なリスクには備え、細かい問題が起きたら対応することにして、“とりあえず”チャレンジしてみる事業所や、職員さんもいます。

こうして、言い訳に流された事業所と、言い訳を乗り越えた事業所とでは、1年後、2年後、大きな差が付いているでしょう。自転車に乗るのと同じで、最初少し痛い目にあっても、慣れてしまえばすいすい進むことも多いですから(^o^)/。

「工賃向上計画」は基本的に3年計画ですが、3年後、“絵に描いた餅”に終わるか、本当に目標工賃に近づけるかは、このように、リスクを恐れず、少しでも前に漕ぎだせたかに左右されるのではないのでしょうか。